

## 公益財団法人いばらき文化振興財団

[法人の概要]

令和5年7月1日現在

代表者名	理事長 小室 昌彦(常勤)	県所管部課	県民生活環境部生活文化課	
所在地	水戸市千波町東久保697番地	電話番号	029-305-0161	
ホームページURL	<a href="https://icf4717.jp">https://icf4717.jp</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:icf-ga2@icf4717.or.jp">icf-ga2@icf4717.or.jp</a>	
資本金(基本財産)	30,000	千円	設立年月日	平成4年7月17日
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額(千円)	出資比率
	1	茨城県	30,000	100.0%
	2			
	3			
	4			
	5			
その他				
設立目的	<p>各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する。</p> <p>平成11年からは、茨城県文化福祉事業団の文化部門を継承し、文化芸術に接する機会の提供、県民文化センターの管理運営及び大洗水族館の運営を行っている。</p>			

[事業の概要]

(単位:千円)

事業名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	内	容
事業1	大洗水族館事業(公2)	1,183,466	1,181,847	1,418,419	「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」を基本テーマとし、地球の自然と世界の水生生物の生態を通して、生物の多様性や自然環境・地球環境について楽しみながら学ぶという教育と娯楽性を兼ね備えるとともに、「展示」、「普及」、「研究」の3つの機能が相互に連動する魅力ある海の総合ミュージアム施設として運営を行う。
	全体事業に占める割合	59.3%	55.4%	53.1%	
事業2	大洗水族館売店事業(収2)	462,407	565,974	806,877	地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、多くの人が来場する大洗水族館の利用者への利便提供のため、物販・飲食部門の運営を行う。
	全体事業に占める割合	23.2%	26.5%	30.2%	
事業3	文化振興事業(公1)	320,130	351,165	406,190	個性豊かな地域文化の創造を図るため、文化芸術活動への助成及び文化芸術に接する機会の提供を行う。また、県の文化芸術振興の拠点施設である県民文化センターの指定管理者として、施設の運営・維持管理・使用承認等を行うとともに、利用者への利便提供等を行う。
	全体事業に占める割合	16.0%	16.5%	15.2%	
その他事業	事業1~3以外	30,025	35,604	39,009	県民文化センター利用者の利便施設として売店等の運営を行う。また、県民文化センター及び大洗水族館を効果的・効率的に運営するため、理事会及び評議員会をはじめ、諸会議の開催、財務及び組織の適正な管理等を行う。
	全体事業に占める割合	1.5%	1.7%	1.5%	
全体事業		1,996,028	2,134,590	2,670,495	指定管理者
	全体割合	100.0%	100.0%	100.0%	

## &lt; 公益財団法人いばらき文化振興財団 から県民のみなさまへ &gt;

いばらき文化振興財団は、各種文化振興事業を行うことで、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的とする公益財団法人です。

平成4年度の財団設立以降、文化活動団体等への助成支援を継続的に行い、平成11年度からは県民の皆様へ良質な文化をお届けするとともに、「県民文化センター」と「大洗水族館」両施設の適切な運営を通して魅力ある施設づくりに努めてまいりました。

文化活動団体等への助成では、コロナの影響を受けた文化団体等の活性化を図るため、要望等に応えた制度の見直しで支援拡充に努めるとともに、公演事業では、コロナ禍においても各種助成金を活用し適正な料金設定で、多種多様なジャンルの舞台公演を提供し文化振興に努めました。

大洗水族館は、コロナの影響を受けながらも新規生物展示や屋外リニューアル効果もあって、令和4年度の総入場者数は歴代3位の1,200,700人を記録し、多くの方々水族館の魅力を提供することができました。

今後は、各市町村や文化団体等と連携し県内全域を視野に入れた県内巡回型事業展開や文化活動団体への助成などを通して、引き続き県内の文化振興を図ってまいります。大洗水族館につきましては、楽しく学べる海の総合ミュージアムとしての魅力向上に努め、県民のみなさまに安全・安心してご利用いただけるよう、職員一同、適切な施設の管理・運営に努めてまいります。

令和6年2月 理事長 小室 昌彦

[経営状況] 公益財団法人いばらき文化振興財団 (単位:千円)

区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減数	増減理由
正味財産増減計算書	経常収益	1,867,501	2,153,287	3,109,183	955,896	
	基本財産運用益	313	313	313	0	
	事業収益	1,588,892	1,963,639	2,868,336	904,697	入場料、売店収入等の売上の増
	受取補助金等	255,790	157,480	183,129	25,649	電気料への補助金
	その他収益	22,506	31,855	57,405	25,550	雑収益の増
	経常費用	1,996,028	2,134,590	2,670,495	535,905	
	事業費	1,983,418	2,120,487	2,655,890	535,403	売上増に伴う費用の増、燃料費・光熱水費の増
	管理費	12,610	14,103	14,605	502	
	うち役員人件費	14,763	15,567	15,282	△ 285	
	うち職員人件費	643,858	642,226	695,247	53,021	給料手当及び退職積立金の増
	評価損益等	0	0	0	0	
	経常増減額	△ 128,527	18,697	438,688	419,991	剰余金の増
	経常外収益	0	0	0	0	
	経常外費用	161	1	346	345	
	経常外増減額	△ 161	△ 1	△ 346	△ 345	
法人税・住民税・事業税	3,169	142	142	0		
一般正味財産増減額	△ 131,857	18,554	438,200	419,646	剰余金の増	
指定正味財産増減額	0	0	0	0		
正味財産期末残高	1,767,321	1,785,875	2,224,075	438,200		
貸借対照表	資産合計	2,508,963	2,621,200	3,102,022	480,822	
	流動資産	579,012	714,242	1,129,993	415,751	預金の増
	固定資産	1,929,951	1,906,958	1,972,029	65,071	積立金の増
	負債合計	741,642	835,325	877,947	42,622	
	流動負債	205,802	302,416	320,594	18,178	仮受金と利用料前受金の増
	うち短期借入金	0	0	0	0	
	固定負債	535,840	532,909	557,353	24,444	退職給付引当金の増
	うち長期借入金	0	0	0	0	
正味財産合計	1,767,321	1,785,875	2,224,075	438,200		
基本財産充当額	30,000	30,000	30,000	0		
県財政関与状況	補助金	51,983	49,749	153,993	104,244	水族館電気料補助金の増
	委託料	230,337	233,759	236,453	2,694	
	貸付金	0	0	0	0	
	その他(分担金・負担金・出捐金等)	196,363	77,469	10,513	△ 66,956	水族館開館記念補助金の減
	合計	478,683	360,977	400,959	39,982	
	財政的関与の割合(%)	15.1%	13.2%	12.6%	△ 0.6	
	損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0	0	
借入金残高(期末)	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0		

主要経営指標	算式等	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減P	備考
公益目的事業比率	認定法第15条に定める率	75.2%	71.6%	68.2%	△ 3.5	
管理費比率	管理費/経常費用	0.6%	0.7%	0.5%	△ 0.1	
人件費比率	人件費/経常費用	33.0%	30.8%	26.6%	△ 4.2	
自己収益比率	自己収益額/経常収益	95.2%	95.8%	93.7%	△ 2.1	
流動比率	流動資産/流動負債	281.3%	236.2%	352.5%	116.3	
借入金比率	借入金残高/負債・正味財産合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	

[組織]

7月1日現在の人数		令和3年		令和4年		令和5年		増減数	増減理由	
		県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB			
役員	常勤理事・監事	2	0	2	2	0	2	0		
	非常勤理事・監事	12	1	0	12	1	0	12	0	
	計	14	1	2	14	1	2	14	0	
職員	管理職	22	0	0	21	0	0	24	3	昇格による
	一般職	42	0	0	46	0	0	43	△ 3	"
	嘱託・臨時職員等	73	/	/	73	/	/	68	△ 5	契約期間満了による
	計	##	0	0	##	0	0	##	△ 5	
当期	プロパー職員平均勤続年数	16.6年	常勤職員(嘱託・臨時職員を除く)の年齢構成					平均年齢	常勤役員平均報酬(年額)	
			~20代	30代	40代	50代	60代		合計	6,411.5 千円
			11	23	13	19	1	67	41.0 歳	プロパー職員平均給与(年額)
										5,954.4 千円

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
目的適合性	9	18	20	90%
計画性	8	20	20	100%
組織運営健全性	10	18	20	90%
効率性	11	17	20	85%
財務健全性	9	17	17	100%
合計	47	90	97	93%

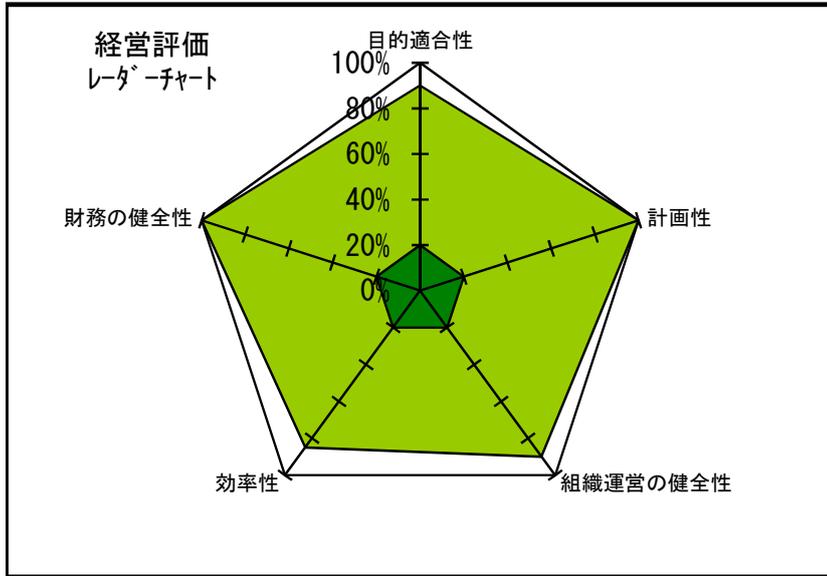
公益法人等会計用

公益財団法人いばらき文化振興財団

警戒指標

《評価の視点》

目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
組織運営健全性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか
財務健全性	法人の財務体質が健全であるか。また、各事業の採算性がとれているか



[法人の自己評価（経営概況、経営上の課題・対策等）]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
<p>定款の目的に則り、個性豊かな県民文化の振興を図るため、文化振興事業、県民文化センター・大洗水族館の管理運営を行っている。</p> <p>今後も県関係機関と密接な連携のもと、設立目的に沿った事業運営に努める。</p>	<p>第5期中期経営計画を策定し、事業別に目標を掲げるとともに、毎年度財団全体の事業計画を作成している。4年度は徐々にコロナ禍から回復し、当初計画の達成に向けて随時計画に対する進捗管理を行った結果、前年度を上回る数字を残すことができた。</p> <p>事業計画に基づきPDCAマネジメントサイクルを基本に、時代のニーズに沿った事業を効果的・効率的に展開していく。</p>	<p>民間からの出向者2名によるスピーディなマネジメントの成果が発揮されている。また、職員が役割や使命を十分に果たすことを期待して、全職員対象のCS研修、労務管理研修やハラスメント研修を実施し、人材育成・能力開発等に努めた。さらに、専門的知識を有する会計事務所及び社会保険労務士へ委託などして、組織運営の健全性の確保に努めている。</p>	<p>協賛金や助成金等の事業資金の確保やWeb会議、ペーパーレス化、競争入札等によるコスト削減など、各種事業の財源確保に努めるとともに、将来的に文書管理システム等の導入に向けた検討を開始し、効率的な事務処理体制に努めた。</p>	<p>コロナ禍からの回復傾向や様々な施策により、両施設ともに前年度を上回る利用者及び入場料を確保する一方で、電気料の高騰により経費が膨らんだが、県の支援もあり、黒字を確保することができた。なお、水族館では人気キャラクターとの異業種コラボや茨城DCなどの活用、文化センターでは水戸市民会館の影響を把握しながら、リピーター及び新規利用者の獲得を図り、財源確保を図っていく。</p>
<p>今後の事業展開の方向及び法人の将来展望</p>	<p>当法人は、各種の文化振興事業を行うことにより、県民文化の振興及び国際性豊かな文化の県づくりに寄与するという目的達成に向けて、次の事業を推進していく。</p> <p>県民の自主的・個性的な文化活動の支援をはじめ、参加体験を通じた文化芸術の担い手育成や県民とともに創る新たな文化プログラムの提供等により文化振興の拡充を図るとともに、県民文化センターの適切な管理運営により、県民が様々な文化芸術に接する機会を提供する。</p> <p>大洗水族館については、20周年を機に作り出した新たなブランドを継承しつつ、常に新しいことに挑戦し、今までにない「世戦」を創出する海の総合ミュージアムである大洗水族館の運営を適切に行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。</p>			

[法人担当課の意見]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
文化芸術に接する機会の提供、文化活動団体等への助成、自然環境教育の拡充を含む水族館の運営など、設立目的に沿った本県の文化振興に寄与する事業を実施している。	中期経営計画や事業計画に基づき、効率的な経営や自主財源の確保、計画的な設備修繕等による利用者の利便性向上を図るなど、計画的に事業を執行している。	幅広い研修内容を提供するオンライン研修の導入や、ハラスメント研修やコンプライアンス研修の実施など人材育成等に努めているほか、事業内容や財務情報などをホームページで公開し、透明性を確保している。	文化庁補助金など外部資金の確保やコスト削減、水族館におけるユニークメニューへの参画など、各種事業の財源確保に努めるとともに、効率的な事務処理体制を構築するなど、効率のよい運営に努めている。	水族館入館者数が歴代3位となる120万人を超え、入館料収益や水族館売店収益が大幅に増加したほか、事業財源の確保及び経費の節減を進めた結果、当期経常増減額は大幅な黒字となるなど、健全な運営が図られている。
法人担当課の意見	水族館の入館者数は歴代3位となる120万7千人となり、入館料収益や売店収益が大幅に増加するとともに、県民文化センターでの文化庁補助金を活用した催事を開催したほか、電気料や燃料費が急激に高騰する中であっても委託契約見直しや光熱水費削減等の経費削減を行うなど、コストの縮減に努めた結果、大幅な黒字を達成したことは評価できる。 令和5年度はコロナ禍からの回復期となるため、水族館の入館者数及び県民文化センターの利用者数について、一層の誘客促進やサービスの向上に努め、入館者数等の確保に取り組むとともに、持続可能な運営を維持できるよう指導していく。			

[経営目標]

区分	指標名	単位	R2実績	R3実績	R4目標値	R4実績	達成度(%)	R5目標値
事業成果	1 県民文化センター施設全体の利用率	%	46	59.2	80.0	69	86.3%	85
	2 水族館の入場者	千人	645	799.0	1083	1200	100.0%	1204
健全性	1 流動比率	%	281	236.0	240	352	100.0%	260
	2 自己資本比率	%	70	68.1	72.8	71.7	98.5%	75.1
効率性	1 職員1人あたりの事業収入	千円	9,754	13,107	15,350	20,199	100.0%	16,647
	2							
平均目標達成度							96.9%	

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
	<b>概ね良好</b>	改善の余地あり	改善措置が必要	大いに改善を要する	
総合的所見等	<p>令和4年度は、コロナ禍からの回復傾向となり、指定管理施設の県民文化センターの利用者数は340千人（前期差102千人増）、大洗水族館の入場者数は、人気アニメとのコラボ等による新たな魅力の継続的な発信や屋外施設のリニューアル、「全国旅行支援」による後押しの効果もあり1,201千人（前期差402千人増）で歴代3位を記録した。経常収益は3,109百万円（前期差956百万円増）、当期経常増減額は439百万円（前期差420百万円増）となり、令和3年度に比べ大きく増加している。今後も収益確保に努めるとともに、効率性を高めるため、引き続き管理費の抑制に努められたい。</p> <p>文化振興事業については、引き続き、個性豊かな地域文化の創造を図るため、文化芸術活動の支援や多くの県民が質の高い文化に接する機会の提供に取り組まれたい。</p> <p>大洗水族館事業については、独自の商品開発を行うなど、民間の知見を生かした運営の成果が表れてきており、コロナ禍においても新しい取組を展開し、総入場者数は目標を上回る結果となった。今後も新たな客層の獲得に向け、利用者ニーズに応えた魅力ある海の総合ミュージアムとして運営されたい。</p>				
総合的所見等に係る対応	<p>令和5年度の大洗水族館事業については、サメの飼育種類数日本一の強みを生かしたサメに特化したイベントや人気キャラクターとのコラボイベントの開催など、新たな魅力を発信し続け、入館者数は、開館年度に次いで最速で1,000千人に到達したところである。</p> <p>文化振興事業については、鑑賞者増や経費削減に努めながら、本県にゆかりのある新進演奏家等で編成した楽団による演奏会など、文化芸術活動の支援や文化に接する機会の提供に取り組んでいるところである。</p> <p>これらのことから、令和5年度の経常収益は、昨年度に引き続き黒字となる見込みである。</p> <p>令和6年度からは県民文化センター指定管理事業がなくなるものの、文化活動の支援や県民の文化芸術に接する機会の提供など、文化振興事業を引き続き実施するとともに、水族館事業において更なる魅力向上と誘客促進に取り組んでいくため、県としては、今後も持続可能な経営体制が維持できるよう、一層の収益確保に向けて支援するとともに、本県の文化振興に寄与できるよう指導していく。</p>				